

原稿 正本

ヨハネ黙示録

第一一章

一 **こんイエス・キリストの黙示なり。** **即ち必ず速に起るべ**
 き事を、その僕どもに **顯さ** せんとて、**神の彼に與へしものな**
 るを、**彼**の使を僕ヨハネに遣して示し給へるなり。ヨハ
 ネは神の言とイエス・キリストの證とに就きて、その見しと
 ころを悉く證せり。此の預言の言を讀む者と之を聞きて
 其の中に録されたることを守る者どもとは幸福なり、時止
 けのばなり。

ヨハネ書をアジヤに在る七つの教會に贈る。願くは今
 いまし、昔いまし、**後來り給ふ者**および其の御座の前にある

聖書改譯原稿用紙

七つの靈、また忠實なる證人、死人の中より最先に生れ給
 ひし者、地の諸王の君なるイエス・キリストより賜ふ恩恵と
 平安と汝らにあらんことを。願はくは我らを愛し、その血を
 もて我らを罪より釋放す。我らを**死**の父なる神のため
 國民となし、祭司となし給へる者に世々限りなく榮光と權
 力とあらんことを。アーメン。視よ、彼は雲の中にありて來
 り給ふ。諸衆の目、殊に彼を刺したる者これを見ん。かつ地上
 の諸族みな彼の故に歎かん、然り、アーメン。
 今いまし、昔いまし、**後來り給ふ**主なる全能の神いひ給
 ふ。我はアルハナリ、オメガなり。

ヨハネ王と云う

九 十 十一 十二 十三 十四 十五

九 汝らの兄弟にして汝らと共にイエスの艱難と國と忍
耐とに與る我ヨハネ、神の言とイエスの證との爲にバトモ
スといふ島に在りき。われ主日に御靈に感じあはるに、我
が後に喇叭のごとき大なる聲を聞けり。曰く汝の見る
ころの事を書に録してエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、
サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤに在る七つの教會に贈
れ。我ふりかへりて我に語る聲を見んとし、振返り見れば
七つの金の燈臺あり。また燈臺の間に人の子のごとき者
ありて足まで垂る衣を着、胸に金の帶を束ね、その頭と
頭髮とは白き毛のごときく雪のごときく白く、その目は燦のこ

聖書改譯原稿用紙

十六 十七 十八 十九 二十

とく、その足は爐にて燒きたる輝ける眞鍮のごとき、その
聲は衆の水の聲のごとし。其の右の手に七つの星を持ち、
その口より西双の利劍いで、その顔は烈しく照る日の如
し。我これを見しとき其の足下に倒れて死にたる者の如
くなれり。彼その右の手を我に持きて言ひ給ふ懼るな、我は
最先あり、最後なり、治する者なり、われ曾て死にたりしが、
現よ、世々限りなく生く。また死と陰府との鍵を有てり。さ
れば汝が見しこと、今あること、後に成らんとする事と
を録せ。即ち汝が見しところの我が右の手にある七つの
星と七つの金の燈臺との奧義あり。七つの星は七つの教會

つか
の使にして、
ち
セツの
とうだ
燈臺はセツの
ち
教會なり。
せ
け

6-94

第二章

一

エペソに在る教會の使に書さるる右の手に七つの星を持する者七つの金の燈臺の間に歩むもの斯く言ふ

二

われ汝の行為と勞と忍耐とを知る。又なんぢが惡しき者を忍び得ざることを。自ら使徒と稱へて使徒にあらずる者

三

をもを試みてその虚偽なるを見あらばし。ことを知る。汝は忍耐を保ち。我が名のために忍びて倦まざりき。然

四

れど我なんぢに責むべき所あり。汝は初め愛を離れたり。されば汝いづこより臨しかを思へ。悔改めて初めの行為を

五

おせ。然らずして若し悔改めずば。我なんぢに到り。汝の燈臺

聖書改譯原稿用紙

六

を其の處より取除かん。然れど汝に取るべき所あり。汝はニコライ衆の行為を。我も之を惡むなり。耳あるもの

七

は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聞くべし。勝を得る者に

八

はわれ神のパラダイスに在る生命の樹の實を食ふことを許さん

九

スミルサに在る教會の使に書さるる。最先にして最後なる者。死人となりて復生せし者。かく

十

言ふ。われ汝の艱難と貧窮とを知る。されど汝は富める者なり。我は又みづからユダヤ人と稱へてユダヤ人にあら

十一

ず。サタンの會に属する者より汝が譏を受くるを知る。なん

ぢ受^うけんとする苦難^{くるしみ}を恐^{おそ}る。あ、親^{おや}よ惡魔^{あくま}あんぢうを試^{こころ}みん
 とて、^{あんぢ}汝^うらの中^{ちゅう}の或^{ある}者^{もの}を獄^{いど}に入^いれんとす。汝^{あんぢ}う十日^{とくか}のあひだ
 患^{あやみ}難^{がた}を受^うけん、あんぢ死^しに到^{いた}るまで忠實^{ちゅうじつ}ふれ、然^さらば我^{われ}あん
 ぢに生^{いのち}命^{めい}の冠^{かん}を與^{あた}へん。耳^{みみ}ある者^{もの}は御靈^{みたま}の諸^{しよ}教^{けく}會^{かい}に言^いひ
 給^{たま}ふことを聞^きくべし。勝^{かち}を得^うるものは第二^{だいに}の死^しに害^{あや}はる。

ことなし

ヘルがセに在^ある教^{けく}會^{かい}の使^{つかひ}に書^かき、おくれ、

雨^{もろは}又^{また}の利^き才^{さい}劍^{けん}を持^もつもの斯^かく言^いふ。われ汝^{あんぢ}の住^すむ所^{ところ}

を知^しる、彼^{かれ}處^こにはサタンの座^ざ位^ゐあり、汝^{あんぢ}わが名^なを保^{たも}ち、我^{われ}が忠^{ちゅう}實^{じつ}なる證^{しやう}人^{にん}アレンテ^てバ^バスが汝^{あんぢ}等^らのうち即^すチサタンの住^すむ所^{ところ}

聖書改譯原稿用紙

にて殺^{ころ}されし時^{とき}もなほ我^{われ}る信^{しん}ある信^{しん}仰^{かう}を棄^すておりき。然^さ

れど我^{われ}あんぢに責^せむべき一二^{いちに}の事^{こと}あり、汝^{あんぢ}のうちにバラム

の教^{けく}を保^{たも}つ者^{もの}どもあり、バラムはバラムに教^{けく}へ彼^{かれ}をしてイ

スラエルの子^こ孫^{そん}の前^{まへ}に蹟^{あと}物^{ぶつ}を置^おかしめ偶^{ぐう}像^{ざう}に献^さげし物^{もの}を

食^{くら}はせ、かつ淫^{いん}行^{かう}をなさしめたり。斯^{かく}のいとき汝^{あんぢ}らの中^{うち}に

もニコライ宗^{しう}の教^{けく}を保^{たも}つ者^{もの}あり。されば悔^{くわい}改^{かい}めよ、然^{しか}らば

我^{われ}すみやかに汝^{あんぢ}に到^{いた}り、わが口の劍^{つるぎ}にて彼^{かれ}らと戦^{たたか}はん。

耳^{みみ}ある者^{もの}は御靈^{みたま}の諸^{しよ}教^{けく}會^{かい}に言^いひ給^{たま}ふことを聞^きくべし。勝^{かち}を得^う

得^うる者^{もの}には我^{われ}かんれたるマナを與^{あた}へん、また受^うくる者^{もの}の外^{ほか}

たれも知^しらざる新^{あらた}しき名^なを録^{しる}したる白^{しろ}き石^{いし}を與^{あた}へん

テアテラに在る教會の使に書きおくれ、

「目は焰のごとく、足は輝ける眞鍮の如くなる神の子、か

く言ふ、われ汝の行為及び汝の愛と信仰と職と忍耐とを

知る、又なんぢの初めの行為よりは後の行為の多きことを知

る。されど、我あんぢに責むべき所あり、汝はかの自ら預言

者と稱へて我が僕を教へ惑し、淫行をなさしめ、偶像に献け

し物を食はしむる、サイゼベルを容れおけり。我かれに悔

改むる機を與ふれど、その淫行を悔改あることを欲せず。

見よ、我かれを杖に投げ入れん、又かれと共に汝の淫を行ふ者

も、その行為を悔改めずば、大なる患難に投げ入れん。又か

聖書改譯原稿用紙

れの子どもを打ち殺さん、斯くてもろくの教會は、わが人の賢

と心とを失はる者なるを知るべし、我は汝等おのの行為

に隨ひて報いん。我この他のテアテラの人にして、いまだ

かの教を受けず、所謂サタンの探さ所を知らぬ汝らに斯く

いふ、我ほかの電を汝らに負はせし。たは汝らはその有つ

所を我が到らん時、まづ保て。勝を得て終に至るまで我が

命せし事を守る者にば、國々を治むる權威を與へん。彼は

鐵の杖をもて之を治め、土の器を碎くが如くならん、我が父

より我が受けたる權威の如し。我また彼に曙の明星を與

へん。耳ある者は御靈の諸教會に言い給ふことを聴くべし、

一 サルデスに在る教會の使に書きおくれ、
神の七つの靈と七つの星とを持つ者かく言ふ、われ汝
の行を^{あこひ}知る、汝は生くる名あれば死にたる者なり。なん
ぢ目を^め覺し、強んど死なんとする^{のこり}殘りのものを堅うせよ、我
おんぢの行爲のわが神の前に金からぬを見とめたり。然
れば^{あこひ}汝の如何に受けしか、如何に^き聞きしを憶ひ^い出で、之を
守りて悔改めよ、もし目を^め覺さずば^ぬ盜人の如く、我をたらん、
汝わが何の時きたるかを知らざるべし。然れどサルデス
にて衣を汚さぬもの數名あり、彼らは白き衣を着て我と

聖書改譯原稿用紙

五 もに歩まん、斯くするに相應しき者あればあり。勝を得る
ものは斯のごとく白き衣を着せられん、我その名を生命の書
より消し落さず、我が父の前と御使の前とにてその名を言
ひ表さん。耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聞
くべし

七 ヒラデルヒヤにある教會の使に書きおくれ、
聖なる者算ある者、汝ビデの鍵を持ちて、開けば開く
者あく、閉れば閉く者あき者かく言ふ、われ汝の行を
知る、我おんぢの前に開けたる門を置く、之を開け得る
者あし。汝すこしの力ありて、我が言を守り、我が^あを拒まず

りき。視よ我サタシの會、即ち自らユダヤ人と稱へてユダ

ヤ人にあらず、たゞ虚偽をいふ者の中より或者をして其の

足下に來り拜せしめ、我が汝を愛せしことを知らしめん。

汝わが忍耐の言を字りし故に、我なんぢを字りて地に住む

者といを試むる爲に全世界に來うんとする試煉の時、免

れしめん。わね速に來うん、汝の有つ物を字りて、汝の冠冕

を人に奪はれず。わね勝を得る者を我が神の聖所の柱

とせん、彼は再び外に出でゐるべし、又かれの上に、我が神の

名および我が神の都、即ち天より我が神より降る新しき工

ルサレムの名と我が新しき名とを書き記さん。耳ある者

は御靈の諸教會に言い給ふことを聞くべし。

聖書改譯原稿用紙

「アアメン」たる者、忠實なる眞なる證人、神の造り給ふ物

の本源たる者かく言ふ。わね汝の行爲を知る、汝は冷かに

もあらず、熱きにもあらず、我は寧ろ汝が冷かならんが、熱か

らんかを願ふ。斯く熱きにもあらず、冷かにもあらず、たゞ

微温が故に、我なんぢを我が口より吐出さん。あんぢ、我は

富あり、豊かなり、乞しき所なしと言ひて、己が惱める者、憐む

べき者、貪しき者、盲目なる者、裸なる者たるを知らず、わね、

十九

て富め、白き衣を買ひて身に纏ひ、^{あぢ}汝の裸體の恥を露さざれ、
眼藥を買ひて^{あぢ}汝の目に塗り見ることを得よ。凡てわが愛

二十

する者は我これを戒め之を懲すこの故にあんが^は爾みて悔

二十一

改めよ。視よ、われ戸の外に立ちて叩く人もし我が聲を聞

二十二

れと共に食せん。勝を得る者には我と共に我が位に坐す

とを聞くべし